

小児セッション特別企画

第35回日本体外循環技術医学会大会では、吉田 靖大会長より座長指名を受けた4名が、小児セッションの内容について幾度となく議論を重ね、下記に示すような企画へとたどりつきました。

午前の部では会場参加型パネルディスカッションを、午後の部では近年討論されている議題、また、体外循環の永遠の課題となる議題をもとに Debate session を企画いたしました。

これらの企画を通して、今大会の基調テーマ「体外循環のエビデンスを求めて」にあるエビデンスを明確に提示し、実践することの意義を今一度、確認したいと考えております。

午前の部

パネルディスカッション “ちょっと拝見 隣の体外循環“

【開催日時】2009 年 10 月 11 日(日曜日) 9:00～11:30

【開催場所】第 4 会場(小ホール)

【座長】 黒光弘幸(京都府立医科大学付属病院) 赤松伸朗(大阪市立総合医療センター)

【進行】 横山真司(兵庫県立こども病院)

【パネラー】 千葉二三夫(手稲溪仁会病院)
繁在家亮(自治医大とちぎ子ども病院)
森田雅教(慶應義塾大学病院)
岩城秀平(静岡県立こども病院)
吉川貴則(福岡市立こども病院・感染症センター)

【オブザーバー】 伊藤英史(岡山大学病院)

【内容】

当セッションは 2 時間 30 分枠の会場参加型一問一答式パネルディスカッションであります。バーチャルケーススタディを通じてパネラーのみならず、会場内の皆様のご意見をお聞きしながら、体外循環の実践に伴うそれぞれの場面での共通見解や優先順位の構築、知識技術の共有を通じて体外循環技術の向上を目指すことを目的としております。

【セクション 1】

各パネラーの体外循環へのこだわりを施設紹介ビデオにてご紹介いただきます。

【セクション 2、3】

臨床で経験するような問題症例を呈示し、その症例の体外循環にまつわるトラブルやピットフォール、ポンプテクニックなど、さまざまな問題についてパネラーに回答していただきディスカッションを進め、さらに、カウンター集計システムを用いて、会場の皆様にも回答していただき、会場参加型パネルディスカッションとして進めていきます。

Debate session “Battle the EBM”

【開催日時】2009 年 10 月 11 日(日曜日) 13:10～15:00

【開催場所】第 4 会場(小ホール)

【座長】 林 輝行(国立循環器病センター) 佐藤昌臣(近畿大学奈良病院)

【プレゼンター】 西垣孝行(国立循環器病センター)
小山富生(大垣市民病院)
北本憲永(聖隷浜松病院)
黒光弘幸(京都府立医科大学病院)
加藤貴充(大阪大学医学部附属病院)
山崎康祥(藍野大学保健学部)

【内容】

本大会の基調テーマである「体外循環のエビデンスを求めて」に必要なものは何か？それは、“Evidence-based medicine” 実証的証拠に基づく医学を常に念頭に考えながら日々臨床に取り組み、技術者でありながら科学者としての視点を失わず体外循環技術の発展に貢献しようと日々努力する姿勢ではないでしょうか。今回は新しい進行形式での Debate session を企画いたしました。Debate は本来、未だ決着のつかない問題に対して、Evidence level の高い過去の文献を検索、調査した上で多くの研究結果の正当性を Review しながら、討論が展開される場であると考えられます。老若を問わず会員の皆様に文献検索の重要性や、相反する論文を理解することの重要性を再認識していただくことがこのセッションの目的であります。

決して勝敗を争うのではなく、各テーマの討論内容から最近の先天性体外循環の動向や新しい知識を持ち帰っていただければと考えております。

【討論テーマ】

1. 『MUF(Modified Ultrafiltration)は本当に必要か？』
2. 『低充填化の功罪を考える』 —さらなる低充填化を安全性の側面から検証すると—
3. 『新生児・乳幼児の血液ガス調節 pH-stat versus alpha-stat』